

Respecting Nature to Shape a Sustainable Society

SBFは「サステナビリティ経営と地域社会への貢献」、そして「現場」が主役のユニークなグローバル経営体制の深化」を2030年に向けた長期経営戦略の中に位置づけています。

この先もずっと社会になくはならない企業であり続けるために、持続可能な社会の実現を目指して、事業活動を推進していきます。



小野 真紀子

常務執行役員
経営戦略・管理本部副本部長
グローバルコーポレート
コミュニケーション部長



当社のPromise「水と生きる」には3つの意味がこめられています。

1つ目は「水を守り大切にすること」。自然の恵みである水を原料とする飲料をお客様にお届けする企業として、地球にとって貴重な水資源を大切に使い、水を育む環境を守りたいと考えています。

2つ目は「社会を潤す」こと。これは水があらゆる生物の渴きを癒すように、水に付加価値を加えた商品で人々を潤すとともに、社会全体に潤いを与える企業でありたいと考えています。

そして3つ目は、水のように柔軟に、「新たな挑戦を続けていく」ということを意味しています。社員一人ひとりが、サントリーの創業精神である「やってみなはれ」を実践し、しなやかに、力強く挑戦できる企業であり続けます。

持続可能な社会づくりへ — 水領域に注力した活動の推進

「水」はあらゆる生命の源であり、私たちSBFの事業の源泉でもあります。「水と生きる」を社会との約束に掲げる企業として、これまで以上に「水領域に注力した活動」を推進し、グローバルに展開していきます。日本ではこれまでも、「天然水の森」での水源涵養活動や、サントリー独自の次世代環境教育「水育」を通して、「水を守り、育む」活動を行ってきました。また、こうした活動は、地域社会との共働により、長年にわたり継続してきた活動でもあります。こうした知見をグループ内で活用しながら、今後は海外でも積極

的に拡大し、各地域に根ざした活動としてグループ全体で「水のサステナビリティ」の実現に貢献していきたいと考えています。

環境負荷低減への国際的な動きとSBF新環境目標

人々の生活がより豊かになる一方で、自然・環境への負荷に対する懸念もますます高まっています。こうした中、パリ協定を始めとした、温室効果ガス排出削減への国際的な取り組みの進展、国連サミットにおけるSustainable Development Goals (SDGs: 持続可能な開発目標)の採択など、持続可能な社会づくりに対する動きが加速しています。

当社は、自然の恵みに支えられている企業の責務として、これまでも水の使用量やCO₂排出量の削減に取り組んできましたが、こうした世界的な動きを踏まえ、2030年までの長期にわたる環境目標を新たに決めました。今後、SBFグループ全体で取り組みを上げていきます。

人・現場が主役 — 脈々と受け継がれる「やってみなはれ」精神

サントリーグループの歴史を作ってきたのは、常に果敢なチャレンジ精神です。失敗を恐れず、果敢に挑戦し続ける。新たな価値提案も、今までにない市場の創造も、そんな情熱から生まれました。「やってみなはれ」は、サントリーグループ創業の精神として脈々と受け継がれ、これまでも、そしてこれからも、私たちの事業の原動力となる価値観です。

事業がグローバルに展開する中、国や地域の枠を越え、多種多様な人材が個性を活かし合い、真に「やってみなはれ」を体現できる企業風土の醸成を目指していきます。

Water

当社は、水に生かされ、水を生かす企業として、「水のサステナビリティ」を事業における重要課題と位置づけています。今後も世界の事業展開国を中心として、水領域に注力した活動を積極的に推進していきます。

サントリーグループ『水理念』

グローバルに飲料事業を展開する企業として、また「水と生きる」企業として、グループ全体でサントリーの『水理念』を共有し、世界各地の水課題の解決に貢献する取り組みを展開していきます。



水循環を知る

使用する水の循環について科学的アプローチに従って流域を調べ、理解を深めます。



大切に使う

水の3R(Reduce/Reuse/Recycle)活動を通じて節水に努め、浄化した水は自然に還し、環境インパクトを軽減します。



水源を守る

サステナブルな未来を実現していくため、ステークホルダーと協力しながら使用する水の水源保全に努めます。



地域社会と共に取り組む

社会が豊かになるように、水課題の解決への貢献を通じて地域コミュニティを支援します。

水を育む自然の保全・再生

サントリー水科学研究所では、各地域において健全な水循環を実現するために、様々な分野の研究者と協力し、科学的根拠に基づいた綿密な調査、研究を行っています。その上で、良質な地下水の持続可能性を保全するために、国内では2003年から各



地の行政や森林保有者と数十年にわたる中長期の契約を結び、サントリー「天然水の森」として水を育む森づくりを行っています。この活動は、2017年3月までに、14都道府県、20箇所、総面積約9,000haにのぼり、工場で汲み上げる量以上の地下水を生み出す森を育てています。また、「天然水の森」での森林整備体験には、これまで累計7,133人の社員が参加し、水を育む森の役割と重要性を体感することで、『水理念』への理解を深めています。

さらに、今後長期にわたり、世界での当社の事業活動をサステナブルなものにするために、製造拠点を設けている海外エリアでの水資源、水リスクの研究、評価を行い、環境経営の推進に役立っています。

世界に広がる水の取り組み

次世代環境教育「水育(みずいく)」

2018年で15年目を迎える次世代環境教育「水育」は、子供たちに、自然のすばらしさ、そして水や水を育む森の大切さに気付いてもらい、未来に水を引き継ぐために何ができるのかを考える、サントリー独自の次世代教育プログラムです。

「森と水の学校」は、小学校3～6年生とその保護者を対象に実施しており、「サントリー天然水」を育む広大な自然を体験することを通じて、「水を育む森や自然の大切さ」を学ぶプログラムです。また、

小学校で先生方と一緒に「出張事業」は、小学校4・5年生を対象に実施しており、映像や実験を通して、自然のしくみや大切さを学び、未来に水を引き継ぐために何ができるのかを考えます。こうした活動には、2017年までに約14万5千名の子どもたちに参加いただきました。

また、2015年からはベトナムでも「水育」を実施しています。現地の水に関わる社会的課題を踏まえ、水の大切さや衛生管理、水源保全の重要性について学習する授業に加え、サントリーペプシコ・ベトナム・ビバレッジ社の工場見学を通じて、節水

や水質保全への取り組みを学ぶなど、ベトナムオリジナルのプログラムを展開しています。ハノイ市の開始以降、ホーチミン市・バクニン市・ベンチェ市、そして2018年にはクアンナム省、ランソン省、ハザン省にも拡大しており、地元行政や地域の方々からも高い評価をいただいています。また、子どもたちの衛生環境の向上に貢献すべく、小学校においてトイレや洗面所などの改修や浄水設備の設置の支援も行っています。

フランスにおける水資源保全活動

フランスで「Orangina」や「Oasis」などの清涼飲料ブランドを製造販売する、「Orangina Suntory France」は、同社メジュー工場の近隣に位置する自然公園グラン・パーク・ミリベル・ジョナージュ(Grand Parc Miribel Jonage)と、水資源保全活動についての新たなパートナーシップを2017年に締結しました。この活動では、同公園内に広がる森林の保全活動や子供向けの教育プログラムの実施サポートをはじめ、水をテーマにした施設を新たに設置し、公園を訪れる地域の方々楽しんでいただきながら、工場近隣エリアの水と自然環境を守り、育む活動を、地域とともに推進しています。



アフリカにおける取り組み

南アフリカでは、環境NPO「WESSA」(the Wildlife and Environment Society of South Africa)と協力し、小学校での水・環境教育プログラムの導入を支援しています。植物などすべての生命を育む水の大切さを学ぶとともに、日々の生活の中で実行できる節水活動や、水の衛生教育を通じて、地域の未来を担う子供たちへの教育コンテンツの充実を推進しています。

また、ケニアのナイロビでは、地域の生活をサポートするKangemi Resource Centreを通じて、学校へ安全で衛生的な飲料水を供給する支援活動を行っています。



Column

CDPウォーター Aリスト企業に2年連続で認定

当社は、水源涵養活動や工場での水使用量削減活動において、環境情報開示システムを提供する国際的な非営利団体「CDP」から、2年連続で「CDPウォーター Aリスト企業」に認定されました。これは、全世界の803の機関投資家(運用資産額100兆ドル)の賛同を得て行われた調査によるもので、当社の自然環境の保全・再生活動や、環境負荷低減活動が、世界的に高く評価されたものと考えています。



Environment

当社は、サントリーグループと一体となり、環境経営を推進します。
自然の恵みに支えられている企業の責任として、
持続可能な社会づくりに貢献するために、
新たに「2030年環境目標」を設定しました。

2030年環境目標

事業活動において、環境負荷低減の2つの目標を掲げます。

1. 水

・グローバルでの「自社工場」の水使用量：15%削減※1

- ・工場における製造設備・容器の洗浄や冷却に使用する水使用量を削減、水の再利用の推進

2. CO₂

・グローバルでの「自社拠点」のCO₂排出量：25%削減※2

・グローバルでの自社拠点以外の「バリューチェーン」全体でのCO₂排出量：20%削減※2

- ・容器の軽量化や、再生素材や植物由来原料を活用した容器の推進
- ・国内最小電力量の自動販売機の積極的な導入

※1 2015年における事業領域を前提とした原単位での削減

※2 2015年における事業領域を前提とした総量での削減

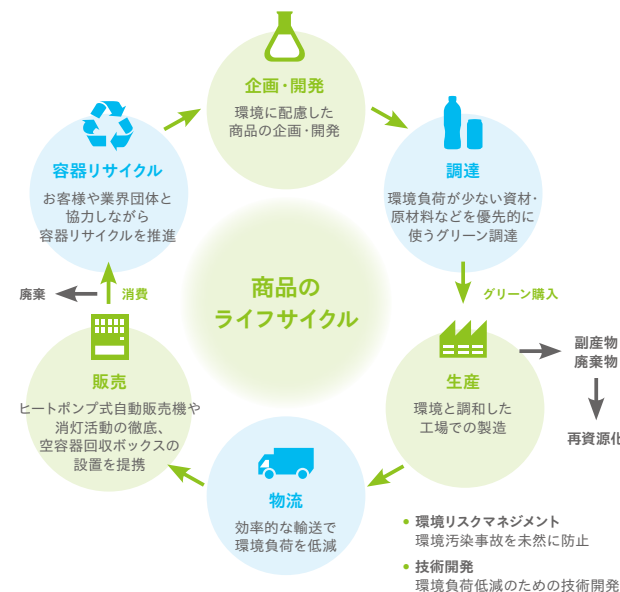
各国の工場や現場で蓄積した技術やノウハウを定期的に共有、水平展開することで、各バリューチェーンにおける適切な取り組みを推進し、グループ内での相乗効果を最大限に発揮していきます。

当社はこの目標をSBT※3へ申請し、正式に認定されました。

※3 SBT (Science Based Targets) とは、世界の平均気温の上昇を産業革命前の2℃未満に抑えることを前提とした、科学的根拠に基づく中長期の温室効果ガス排出削減目標を認証するイニシアティブのこと。

バリューチェーン全体で取り組む環境負荷低減活動

当社グループは、原材料調達、製造から物流、販売、リサイクルにいたるまで、バリューチェーン全体で環境負荷低減を推進します。



生産における水使用量の削減、CO₂排出量削減の取り組み

工場では、製造設備の洗浄や冷却用に多くの水を使用するため、限りある水資源を大切に「水の3R (Reduce: できる限り使う水を少なくする、Reuse: 繰り返し使う、Recycle: 処理をして再生利用する)」を徹底しています。また省エネ活動では、自家発電で生じた熱の再利用、CO₂排出量の少ない燃料への転換など、様々なCO₂排出量削減の取り組みを推進しています。

水使用実績2017年

(国内生産9工場、海外生産37工場)※4

	排出量 (千m ³)	原単位削減率※6
SBF合計	22,084	-1.4%

CO₂排出実績2017年※5

(国内生産25工場、海外生産54工場)※4

	排出量 (千t)	原単位削減率※6
SBF合計	431	-0.3%

注：2017年は日本における一部工場での製造ライン増設による、初期稼働率悪化の影響があります。

※4 サントリーグループ売上高9割以上を占める事業会社群が所属する国内生産9工場、海外生産37工場

※5 電気由来のCO₂排出量はGHGプロトコルCO₂排出係数を使用

※6 原単位は製造1あたり排出量、削減率は対前年比

水のカスケード利用

サントリープロダクツ(株)天然水南アルプス白州工場では、水のカスケード(多段階)利用といった高度な循環再利用により、水使用原単位で業界トップレベルを達成しています。また、雨水をタンクに貯めて、植栽への水やりや空調機械の冷却水に利用するなど、水の有効活用を努めています。

CO₂排出量の低い燃料への転換

重油から都市ガスやLNG(液化天然ガス)への転換を実施、熱量あたりのCO₂排出量が低い燃料への切替えを実施していきます。また、海外では、フランスなどでグリーン電力の積極的な活用を推進しています。

再生可能エネルギーの活用促進

当社の工場では、太陽光、雪氷、バイオマス、マイクロ水力などさまざまな再生可能エネルギーの活用を進めています。

サントリープロダクツ(株)天然水南アルプスの白州工場では、飲料業界最大規模の発電能力、約490kWの太陽光発電パネルを設置、工場で使用する電力の一部をまかない、電力会社からの電気購入に比べてCO₂排出量を年間約205トン削減できています。

ペットボトルでの「2R+B」戦略

当社グループの製品は、その多くが容器に入れられてお客様に提供されています。そのため、容器包装の環境負荷低減を積極的に推進しています。中でも、ペットボトル容器に関しては、当社

独自の「2R+B」戦略に基づき「環境への配慮」と「使いやすさ」を併せ持つ容器開発に注力。開発において、樹脂使用量の削減と再生素材の活用により資源の有効利用を図るとともに、CO₂排出量の削減にも貢献しています。



自動販売機の省エネ活動推進

当社では、2007年から従来の自動販売機に比べて電力使用量を大幅に削減できる「ヒートポンプ式自動販売機」※7の設置を推進、2017年末には全稼働台数の71%となりました。

また2014年4月からは、さらなる環境負荷低減への貢献を目指し、従来の機器に比べて、およそ半分の消費電力量(420kWh/年)で稼動する「超省エネ自動販売機(エコアクティブ機)」の導入を開始、この機器は国内最小※7の消費電力量を実現しています※8。

※7 ヒートポンプ式自動販売機とは、冷却庫室で発生した熱を回収し、加温庫室で活用するシステムを搭載した自動販売機です

※8 2018年1月現在 国内主要自動販売機メーカーの主要25セレクションにおいて(サントリービバレッジソリューション(株)調べ)

Column プラスチックによる海洋汚染問題

ペットボトルを含むプラスチック容器による海洋汚染の問題が深刻化しており、世界的な環境課題として議論されています。

当社は多くの容器を扱う飲料企業として、積極的にこの問題に取り組む、国や地域、産業界と連携しながら、解決に向けて取り組んでいきます。当社はこれまで2R+Bの推進、また消費者へのリサイクル啓発活動を、国内・外で継続的に展開してきました。今後も各国や地域におけるさらなるリサイクル率の向上を目指し、様々なステークホルダーと協働して、改善活動を促進していきます。

例えば当社グループのLucozade Ribena Suntory, U.K.では英国プラスチック協定※9に署名しています。

※9 英国プラスチック協定とは、英国政府やNGOが共同でプラスチックにおける循環型経済を目指し掲げた、新たな取り組みです。

People

サントリーグループでは、人材の多様性を推進し、多様な価値観や発想を活かして価値を生み出す「ダイバーシティ経営」を基本方針としています。SBFにおいても、国籍、性別などにかかわらず、世界中の社員一人ひとりが、サントリーグループ、そしてSBFの家族の一員である、という意味を込めて、私たちはすべてのグループ社員を「Suntorian」と呼んでいます。同じ志、価値観を共有し、個人として、そしてSBFの一員として成長し続け、それぞれの現場で、新たな価値創造に果敢に挑戦できる組織風土、職場環境と仕組みづくりを推進していきます。

One Suntory, One SBFの実現

Suntory People Way

事業のグローバル展開の加速に伴い、成長の原動力である人材に対する考えを、「Suntory People Way」としてサントリーグループ全体で制定しました。サントリーのオリジナリティやユニークネスを念頭におき、「FAMILY」「YATTE MINAHARE」「ENGAGEMENT」の3要素で構成しており、サントリーグループに集うすべての人材に対する思い・考え方を表すとともに、人材に関わるすべての活動の根源と位置づけています。また併せて、ダイバーシティ推進を経営課題と捉え、「サントリーグループダイバーシティビジョン」を定めました。

Suntory People Way

FAMILY

サントリーに集う人は家族です。かけがえのない存在です。サントリーが、よりよい企業グループとして成長していく原動力はサントリアン一人ひとりです。長期的な視野で成長機会を提供し、健康で幸せに満ちた生活の実現をサポートします。

YATTE MINAHARE!

創業の志を胸に、わくわくするような目標を掲げ、決して諦めることなく、積極果敢な挑戦を続けます。

ENGAGEMENT

私たちは、創業精神とビジョン「Growing for Good」で強く結ばれています。

個性あふれる一人ひとりが多様な価値を認め合い、響きあひながら、世の中に感動と喜びをお届けします。



Suntory Group Diversity Vision

私たちは一人ひとりの個性を尊重し互いを信頼しあう
多彩なサントリアンの魅力を高めあひひとつになる
多様な考え方、考動、経験を柔軟に受け入れ
ONE SUNTORYとしてグループの明るい未来を築いていく

世界で活躍できる人材の発掘・登用

グループタレントレビュー

グループを超えて、グローバルで活躍できる人材の発掘・育成・活用に向けて、国、地域、また職種別のタレントレビューを実施し、年に1度、グループ全体での共有、議論を実施しています。各グループのトップマネジメントが集まり、グループのキータレント・ポジションの把握や、重要ポジションの後継者計画、また国や事業を超えた人材交流の検討等を行い、幅広い成長機会を提供することで、人材のキャリア・ディベロップメントを推進しています。今後も、グループ全体でのタレントマネジメントをさらに進化させていきます。

リーダーシップ開発、研修プログラム

サントリーグループでは、企業の成長の源泉は人材にあるとの

考えから、2015年4月に、人材育成プログラム「サントリー大学」を開校。事業成長の原動力となるビジネスリーダーを継続的に育成していくために、より高いビジネスレベルを目指したキャリアアストレッチの機会を提供しています。従来の業務の枠を超えて、社外、海外との接点を組み込むとともに、経営戦略にリンクしたカリキュラムを実施しています。チームリーダー層対象の「GLDP (Global Leadership Development Program)」、部門リーダー層対象の「Beyond Borders」、次世代経営層対象の「GLF (Global Leadership Forum)」などのキャリアレベルに応じた研修をはじめ、グローバル業務遂行のための基礎力を鍛える「キャリアチャレンジ」、海外グループ会社でのOJTを通じて異文化対応力を磨く「トレーニー」等、多彩なプログラムを実施しています。また、生産、R&Dなど、機能別にナレッジや方針の共有・浸透を図るための各種研修も実施しています。

創業精神の共有・浸透

国内外のすべてのグループ会社を対象に、企業理念や「やってみなはれ」「利益三分主義」といった創業精神について、理解、浸透を図るための活動を展開しています。サントリーグループで実施している「アンバサダープログラム」では、講義、視察、ワークショップを通じて、サントリーの創業精神への理解を深めるとともに、サントリーグループの一員としての一体感を醸成しています。SBFでは、経営トップ自らが国内外の事業所を訪問し、自らの言葉で創業精神やSBFのビジョンについて語る、「Town Hall Meeting」を積極的に行っています。

生産性の向上と、よりフレキシブルな働き方への改革

多様な社員が、生産性高く、いきいきと働くことを目指し、フレックス勤務の導入や、テレワークの推進、また日本国内のシェアオフィス利用の促進など、様々な活動を行っています。また、一人ひとりのスキルを向上し、日常業務の生産性を上げる試みとして、イントラネット上でのナレッジシェアや、独自に開発したITスキル研修も実施しています。さらに、テクノロジーを活用し、RPA(Robotic Process Automation)を用いた業務の効率化を導入し、管理部門から営業部門へと順次対象部署を拡げています。

また、生産性向上により創出された時間を使い、個人個人のさらなる学びと成長につなげるために、社員が自発的に学び、教える場を提供するプラットフォームとして2016年に『寺子屋 サントリー・私』の学びサイト」と名付けたサイトを立ち上げました。ここでは、仕事や役職にかかわらず、



自らの興味関心や個人の得意とするスキルや能力をシェアし、誰もが学び、教えられる風土づくりを促進しています。

健康経営の推進

サントリーグループでは、2016年から「健康経営」を推進しています。一人ひとりが生活習慣の改善目標を掲げ、主体的・継続的に健康促進に取り組んでいけるように、「サントリーヘルスマチャレンジ」と題した健康合宿やセミナーの実施、また取り組みに応じて社員にポイントを付与する「ヘルスマイレージ」などを導入しています。2017年にはグローバル健康経営×環境経営の取り組みとして、世界のサントリーグループ全社員約3万8千人を対象にしたウォーキングイベント「One Suntory Walk」を実施しました。こうした取り組みが評価され、SBFは経済産業省と日本健康会議が共同で実施する「健康経営優良法人2018(大規模法人部門)～ホワイト500～」に、サントリーホールディングス(株)とともに認定されました。



Column

サントリーホールディングス(株)が米ビジネス誌「FORTUNE」発表の“世界で最も賞賛される企業”〈飲料・酒類業界部門〉で第5位に

サントリーホールディングス(株)は、米ビジネス誌「FORTUNE(フォーチュン)」主催の“世界で最も賞賛される企業(The World's Most Admired Companies) 2018”ランキングの〈飲料・酒類業界部門〉で、第5位に選出されました。

このランキングは、「FORTUNE」が1997年から毎年発表している世界的に権威のある企業ランキングです。世界の有力企業約650社を対象に、企業の経営者や金融アナリストなど約3,900人へアンケートを実施し、Innovation, Social Responsibility, Quality of Products/Services等の9つの評価項目に基づいてランク付けされます。今回の〈飲料・酒類業界部門〉での第5位は、2016年に続き日本企業としては過去最上位の選出であり、サントリーグループのこれまでの企業活動が高く評価されたものと考えています。